

第3回経営顧問会議 議事概要 (案)

1. 日 時 : 平成30年2月1日(木) 14:00~16:00

2. 場 所 : 東京事務所 役員会議室

3. 出席者 :

経営顧問会議委員

議長	吉川 弘之	科学技術振興機構	上席フェロー
	石田 寛人	本田財団	理事長
	大庭 三枝	東京理科大学	教授
	奥村 直樹	宇宙航空研究開発機構	理事長
	田中 伸男	笹川平和財団	会長
	真砂 靖	西村あさひ法律事務所	弁護士
	向殿 政男	明治大学	名誉教授
欠席	勝野 哲	電気事業連合会	会長
欠席	北村 正晴	テムス研究所	所長

原子力機構

	児玉 敏雄	理事長
	田口 康	副理事長
	青砥 紀身	理事
	三浦 幸俊	理事
	山本 徳洋	理事
	伊藤 肇	理事
	渡辺 その子	理事
	仲川 滋	監事
	小長谷 公一	監事
欠席	野田 耕一	理事

4. 議 題：

- (1) 開会挨拶
- (2) 第2回議事概要(案)確認
- (3) 第2回経営顧問会議におけるご意見への対応について
- (4) 原子力機構の取組
- (5) 意見交換
- (6) 閉会挨拶

5. 配布資料：

- 資料 3-1. 第2回議事概要(案)
- 資料 3-2. 第2回経営顧問会議におけるご意見への対応について
- 資料 3-3. 原子力機構の経営課題と研究開発成果の創出に向けて
- 資料 3-4. 更なる安全性向上を目指した取組みについて

6. 会議概要：

会議では、資料 3-1 に基づき第2回議事概要(案)について確認が行われ、原案どおり確認された。次に、事務局より資料 3-2 に基づき第2回経営顧問会議におけるご意見への対応について報告を行った。その後、大井川事業計画統括部長から資料 3-3 に基づき原子力機構の経営課題と研究開発成果の創出に向けて、児玉理事長から資料 3-4 に基づき更なる安全性向上を目指した取組みについて説明した。これらを受けて、各委員から幅広いご意見及びご指摘を頂いた。

7. 主なご意見及びご指摘：

【原子力の将来ビジョンと現場のモチベーションについて】

- 国を挙げて原子力をどうしていくのだという夢とモチベーションない限り、品質管理が有効に作用することはないと思う。機構におけるモチベーションとは何なのかを示すことは必要条件である。
- 高速炉の本質は中性子を大事にしながらエネルギーを出しうる原子炉ということである。原子力科学全体をもう一度広く見直す必要があるのではないか。
- 社会の中で自分たちがどのように評価されているか、どのように社会全体に貢献できるのか、などを含めた、自分たちがこの分野の研究開発を今進めていくことの意義が全く見えない中ではモチベーションは維持できないのではないか。
- 何のために研究開発をしているのかとビジョンが大切である。
- 現場の人たちが本気でやる気になるにはどうしたらよいか。そこが本質なのではないかそういう印象を持った。
- 機構がどういう夢をもって、どっちに向かっていくのか、それがないと現場はやる気は起きないのではないか。政府の方向性が出ていない状況ではあるが、研究機関としての独自の前向きな理念が必要である。

【機構の研究開発の現状に関する政策への反映（発信）について】

- 技術がどうなのかということに加えて、今やっている人たちのモチベーションがどうなのかということも機構として発信していく必要がある。
- 我々は、少なくとも、核分裂連鎖反応を安全に制御する技術、原子炉をしつかり取り扱う技術を持ち続けなければならない。政策形成は、原子力委員会や経済産業省の役目であろうが、技術開発の **Driving Force** は JAEA である。

【大洗工学センター燃料研究棟での被ばく事故について】

- 作業手順書の中にこういうことが起こりうるということが書かれていなかったと理解した。実態を知らない職員が、手順書を作っているケースがある。ひとつのヒントであると思う。見直しの一つの視点ではないか。

- 組織要因について報告書を規制委員会に提出後、再提出を求められたとあったが、どういう点で議論があったのか。

【高温ガス炉の研究開発の進め方について】

- 基本的に fail safe の構造にして、信頼性を高めて常に動かしておく、ヒューマンエラーに対しては柔軟に対応する。そういう小型の炉を分散して置く。そういう方向が可能ならば日本から発信してもらいたい。

以 上